

コニカにおける 研究開発

専務取締役 若林 康夫



「小西六レビュー」以来、長らく中断されていた研究報告誌が、新生コニカ発足を機に、名前も新たに再発行されることになったのは真に意義深いことです。この間、科学、技術は著しく進歩発展し、当社でも次々と新技術を開発し、それをもとにいくつかの新規製品、新規事業を生み出してきました。磁気材料、各種プラスチックレンズおよびユニット、スチルビデオカメラやビデオプリンターなどの電子映像機器、印刷製版用自動組版システム、デジタルラジオグラフィシステム、高密度フロッピーディスクドライブ、乾式血液分析計などと、従来の感材、カメラ、複写機事業に加え、新しい分野がいろいろと開拓されつつあります。この間、開発された技術は無数にあるといっても過言ではないでしょう。今後このような技術を世に問いかける場として、コニカテクニカルレポートを大いに活用して頂きたいと思います。

さて、研究開発にたずさわる者は、研究開

発のプロであってほしいと思います。プロとは常に高い目標を掲げそれに挑戦し、自己の成長へとつなげてゆくものです。高い研究開発目標を掲げて挑戦し成功したときの喜びこそ研究開発者の生甲斐であり人生そのものです。勿論、行詰りもあり失敗もあります。そのときのみじめな気持ちは経験者でなければ解らないでしょう。それだけに成功の喜びは幾層倍にもなります。常に自分とのたたかいです。

企業の研究開発者は、会社という場を利用して、研究開発を通して自己実現をしてゆくものと思います。それによって会社も発展してゆきます。研究開発者の皆さんの活動如何が会社の将来の運命を左右します。

本誌が当社の研究開発の成果を世に問い、我々の技術のレベルアップにつながる場として有用なものになることを心より期待しております。